

第三二號

天參秘第四七號

軍兵力並配置ニ關スル參考資料送付ノ件

昭和十一年三月四日

支那駐屯軍參謀長

永見俊

陸軍次官 古莊幹郎 殿

當軍改編ニ伴フ兵力並其配置ニ關スル參考資料ヲ左ノ如ク送付ス

一、支那駐屯軍兵力變遷表

五部

一、北清事變後列國指揮官會議ニ於テ決議セル北支那駐屯列國軍兵力表

五部

一、現駐屯地以外ノ地ニ於ケル駐屯狀況

五部

一、英國軍ノ豐臺守備ノ經緯ト日本軍ヲ配置セントスル能否調査

五部

免三初
陸軍省
陸軍部

各号
陸軍省
陸軍部

陸軍省
陸軍部
四二〇

陸軍省
陸軍部
11.3.16
陸軍大臣
陸軍次官

32

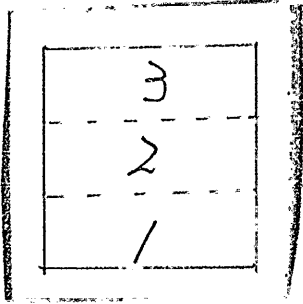

陸軍省
陸軍部
11.3.16
陸軍大臣
陸軍次官

陸軍省
陸軍部
316
陸軍大臣
陸軍次官

陸

制

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 11月 27日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	



支那駐屯軍兵力變遷表

昭和十一年一月調
支那駐屯軍參謀部第一課

増減理由並編成ノ概要

第五師團出動部隊

- 1 首音 清國駐屯軍編成完結
- 2 編制ノ概要
- 3 步兵第一乃至第六大隊
- 4 騎兵中隊
- 5 野戰砲兵大隊
- 6 工兵中隊
- 7 第一第二野戰病院
- 8 野戰兵器廠
- 9 憲兵隊
- 10 軍樂隊

列國未タ平常時期ノ兵力ニ減少セザリシモ我軍ハ十月二十四日編制ヲ改正セラレ十一月ヲ以テ減兵ヲ完結シ平常兵力ニ移リシリ 其編制左ノ如シ
 1 清國駐屯軍司令部一個 (電信通信員及憲兵ヲ附屬ス) 2 北清駐屯諸隊
 3 步兵(軍)大隊(中隊)一個 (4) 步兵(中隊)二個 (5) 騎兵隊一個 (6) 野戰砲兵中隊一個
 7 病院一個 8 上海駐屯步兵隊

清國駐屯軍編制改正セラレタリ其新編制左ノ如シ
 1 清國駐屯軍司令部一個 (通信憲兵ヲ屬ス) 2 天津駐屯步兵隊(中隊)一個 3 北京駐屯步兵隊(中隊)一個 4 山海關駐屯步兵隊(中隊)一個 5 上海駐屯步兵隊一個 6 天津駐屯騎兵隊 7 清國駐屯軍病院
 明治三十五年十月二十二日上海駐屯部隊撤廢ノ命令アリテ撤退セリ

駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ 新派遣隊步兵八第ニ第七師團 騎兵其他ハ前交代ニ全シ
 明治三十七年八月八日露戰爭中ナリシヲ以テ交代セス

交代ヲ爲セリ 第三第十師團ヨリ派遣

交代實施 天津步兵三、一七、三六ヨリ 北歩歩二、四ヨリ派遣

減兵發令十二月實施 歸還部隊 歩三、一五、五四、五九

交代

交代 派遣部隊 歩六、歩七、歩三七

交代 派遣部隊 歩六、歩六八、歩三三

清國政府動搖セル爲 第三師團ヨリ増派 七〇三名

澧州清國兵叛亂 軍ハ澧州以東ニ歩一中隊ヲ派遣ス更ニ二月増派セリ

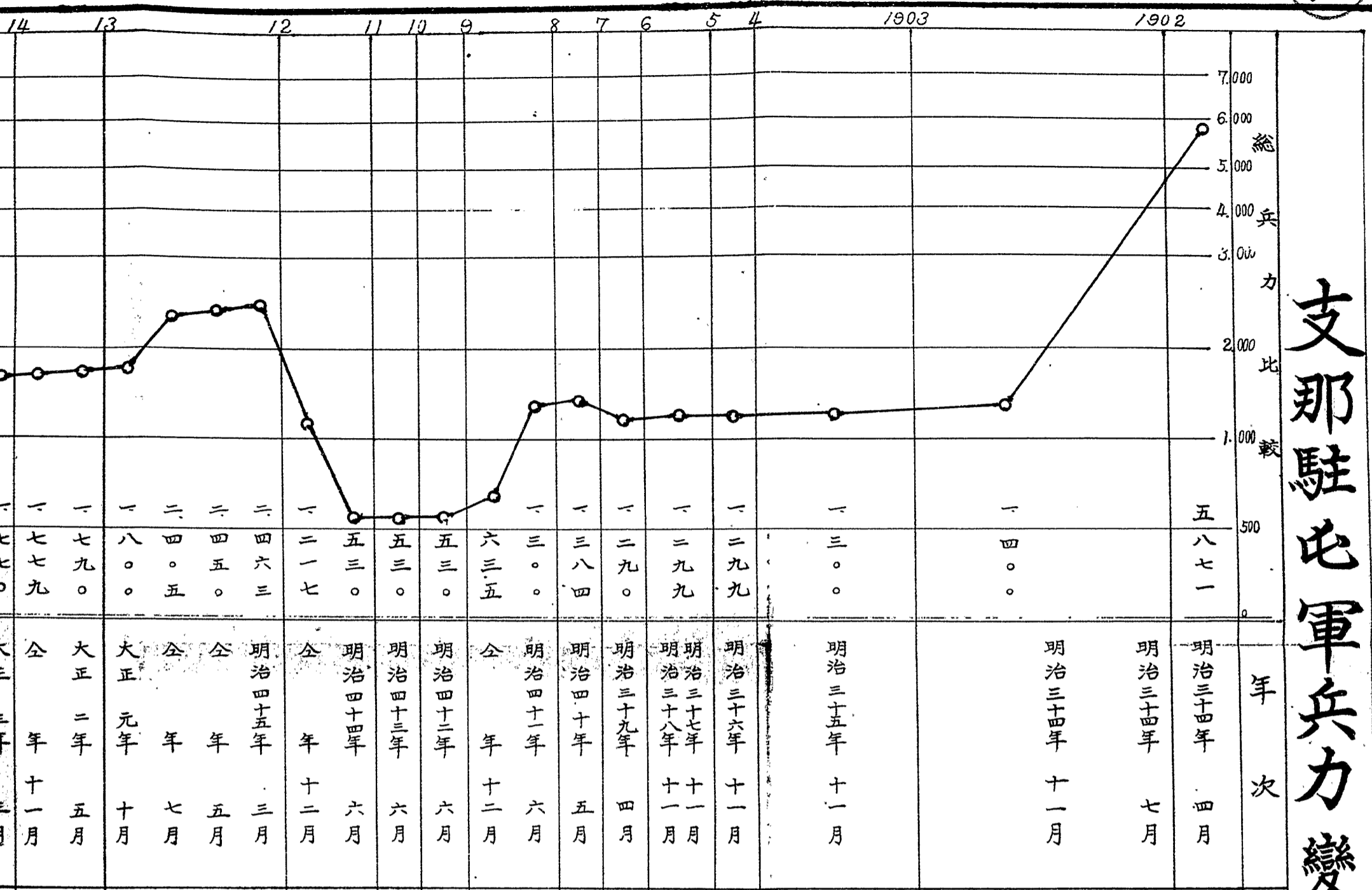
關東軍ヨリ歩二ノ増遣ヲ受ク 部隊交代 當時ノ軍ノ配置 北京 北歩並機關銃小隊 歩六ノ五ノ七中隊
 天津 天津並MG(小隊) 歩六ノ五ノ七 歩六ノ五ノ七(六名)
 澧州 山海關 步三三ノ五

中清派遣大隊編成セラレ中清ニ派遣ス

北清派遣第三大隊交代 第十七師團 本部 歩四、五四、二、六三

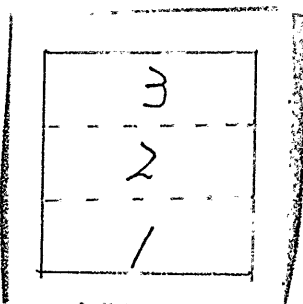

駐屯中隊交代

支那駐屯軍西歩兵大隊ノ可レ駐屯セリ各部隊歸還セリ四十四年十二月清國



年次	兵力	増減理由並編成ノ概要
明治三十四年 四月	5871	第五師團出動部隊
明治三十四年 七月	1400	清國駐屯軍編成完結
明治三十五年 十一月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治三十六年 十一月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治三十七年 十一月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治三十八年 十一月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治三十九年 四月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治四十年 五月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治四十一年 六月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治四十二年 六月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治四十三年 六月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治四十四年 六月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
明治四十五年 三月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
大正元年 十月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
大正二年 五月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ
大正二年 十一月	1300	駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3 年 11 月 27 日</p> <p>主務者又は</p> <p>撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

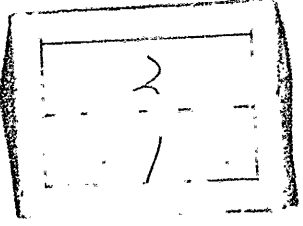



支那駐屯軍兵力變遷表

昭和十一年一月調
支那駐屯軍參謀部第一課

年次	増減理由並編成ノ概要	兵力
明治三十四年 四月	第五師團出動部隊	五八七一
明治三十四年 七月	一 七月五日 清國駐屯軍編成完結 二 編制ノ概要 一 駐屯軍司令部 二 守備隊司令部 三 步兵第一乃至第六大隊 四 騎兵中隊 五 野戰砲兵大隊 六 工兵中隊 七 第一第二野戰病院 八 野戰兵器廠 九 憲兵隊 十 軍樂隊 列國未夕平常時期ノ兵力減少セザリシモ我軍八月二十四日編制ヲ改正セラレ十一月ヲ以テ減兵ヲ完結シ平常兵力ニ移リタリ 其編制左ノ如シ 一 清國駐屯軍司令部一個 (電信通信員及憲兵ヲ附屬ス) 二 北清駐屯諸隊 三 步兵第一大隊(中隊)一個 (四) 步兵第二大隊(中隊)二個 (三) 騎兵隊一個 (四) 野戰砲兵中隊一個 (五) 病院一個 三 上海駐屯步兵隊	一四〇〇
明治三十五年 十一月	一 十月 駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ 新派遣隊步兵八第ニ第七師團 騎兵其他ノ前交代ニ全シ 明治三十七八年八日露戰爭中ナリシヲ以テ交代セス	一三〇〇
明治三十六年 十一月	一 十月 駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ 新派遣隊步兵八第ニ第七師團 騎兵其他ノ前交代ニ全シ	一二九九
明治三十七年 十一月	一 十月 駐屯軍ノ交代ヲ爲セリ 新派遣隊步兵八第ニ第七師團 騎兵其他ノ前交代ニ全シ	一二九九
明治三十八年 十一月	一 四月 交代ヲ爲セリ 第三第三十師團ヨリ派遣	一二九〇
明治三十九年 四月	一 五月 交代 天津步兵三一七、三六ヨリ 北歩歩二四ヨリ派遣	一三八四
明治四十年 五月	一 六月 交代實施 天津步兵三一七、三六ヨリ 北歩歩二四ヨリ派遣	一三〇〇
明治四十一年 六月	一 六月 減兵發令十二月實施 歸還部隊 歩二一五、五四、五九	六三五
明治四十二年 六月	一 六月 交代	五三〇
明治四十三年 六月	一 六月 交代 派遣部隊 歩八、歩七〇、歩三七	五三〇
明治四十四年 六月	一 六月 交代 派遣部隊 歩六、歩六八、歩三三	五三〇
明治四十五年 三月	一 一月 清國政府動搖セル爲 第三師團ヨリ増派 七〇三名	二四六三
明治四十五年 五月	一 一月 遼州清國兵叛亂 軍八遼州以東ニ歩一中隊ヲ派遣又更ニ二月増派セリ	二四五〇
明治四十五年 七月	一 五月 關東軍ヨリ歩一ノ五増遣ヲ受ク 部隊交代	二四〇五
大正元年 十月	一 六月 一部交代 當時ノ軍ノ配置 北京 北歩並機關銃一小隊 歩六ノ五ノ七中隊 天津 天歩並MG(小隊) 歩六ノ五(七) 歩六ノ五(六)(大) 出海關 歩三三ノ五	一八〇〇
大正二年 五月	一 五月 北清派遣第二大隊交代 第十七師團 本部 歩四一、五四、二一、六三	一七九〇
大正三年 三月	一 九月 駐屯中隊交代	一七七九
大正三年 九月	一 九月 駐屯中隊交代	一七七九

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 11月 27日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

鐵道沿線要圖

鐵道沿線	要圖						合計	第一次革命直前兵力	同革命後ノ兵力	昭和三年濟南事變時ノ兵力	昭和十一年現在兵力
	昌黎	灤州	唐山	蘆台	塘沽	軍糧城					
	三〇〇	三〇〇		三〇〇			六九二	一七七九	六一八七	二〇〇三	
			三〇〇	三〇〇			一九二一	二六五二	一九二四	一〇〇〇	
							一五四	四五九			
							一二七〇	一二七〇	二九三一	一七五一	
							三一	一〇四六			
							一三七	一四三二	四四七四	一二一〇	
							二二〇	二二〇	四八七	三八九	
							四〇	八五			
							余				

各地各々三百人ニシテ内五十人ヲ騎兵トシ外ニ機關砲二門ヲ附ス

備考

一、本表北支那駐屯列國軍ノ兵力ハ十九百年十二月北京列國公使ヨリ清國講和全權委員ニ提出シタル講和條款ニ基キ翌年四月六日列國軍指揮官會議ニ於テ決議セシモノ及該決議案ノ移牒ニヨリ列國公使ノ提議ニ基キ四月二十九日第二回列國軍指揮官會議ヲ開キ修正決定シタルモノニ基ク

二、本表ノ兵力ハ逐次減少シテ第一次革命直前ニ在リテハ上欄前番(朱書)ノ兵力トナリ同革命後更ラニ上欄(朱書)ノ兵力ニ増加シ歐州戰役及同日獨戰ニ關聯シ再ヒ左記現在ノ兵力ニ減少セリ

日本 五九五
 露國 五〇〇
 日國 三六
 英國 一四五〇
 法國 一四三三
 獨逸 二〇二
 伊國 一〇〇
 佛國 約一八〇
 埃國 四二

要スルニ本表ハ北支那駐屯軍兵力カ如何ナル條文ニ基キ或ハ亦其増減ハ各國外交當局若ハ列國指揮官ノ同意ヲ要スヘキモノナルヤヲ明瞭ナラシムル爲メ調査セルモノナリ而シテ十九百年四月六日列國軍指揮官會議ニ於テ永續的守備兵力ト決セルニモ拘ラス英國ノ如キハ定數外(第三回會議ノ定數ニハ充テタルモ此ハ變遷時間ニ關スルモノニシテ準據スヘキモノニテアラサルヘシ)ニ達ス殊ニ革命動亂後ニ於テ英露米ノ増加甚クシキヲ以テ歴史ヲ研究スルニ第一回革命ノ際列國公使團ノ提議ニ依リ義和團事變後ニ於ケル各國ノ兵力ヲ標準トシ便宣増兵ノ件ヲ決議セシコトアリ依テ英國ハ一大隊ヲ露國ハ一大隊ヲ米國ハ一大隊ヲサツク騎兵半中隊ヲ米國ハ一大隊ヲ聯隊一大隊員ノ件ヲ決議セシコトアリ依テ英國ハ一大隊ヲ露國ハ一大隊ヲ米國ハ一大隊ヲサツク騎兵半中隊ヲ米國ハ一大隊ヲ共通通事官列國公使團ニ通知スル由尤モ其時ノ狀況ニ依リ或ハ事後ニ議ルコトアリ若クハ其國ノミニ通知スル等其形式ニハ各國



判決

本調査ニ依ルニ定數外増加ノ場合關係國外交當局若ハ軍隊指揮官ノ間ニ何等カノ交渉ヲ要セシ事實ナク自國ノ立場及軍ノ狀況ニ依リ列國ハ適時増減ヲ實施シテ我支那駐屯軍ニ必要ニ應ジ列國協議スルコトナク任意増減差支ナキモノト認メラル尚増加ヲ繼續スル中ニ夫カ定數兵カトナリアルノ狀況ナリ。

北清事變後列國軍指揮官會議ニ於テ決議セシ北支那駐屯列國軍兵力表

昭二一、一
參謀部第一課

駐屯地國名

日 英 獨 佛 露 米 伊 奧

摘要

北京

三〇〇 二五〇 三〇〇 三〇〇 三〇〇 一五〇 二〇〇 二〇〇

上記兵力ハ一九〇一年四月六日列國軍指揮官會議ニ於テ決議セシ會議ニ於テ議決セシモノニシテ總數二〇〇〇人ヲ超過セザラシメタリ

天津

四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇 若干

上記兵力ハ四月六日列國軍指揮官會議ニ於テ決議セシ會議ニ於テ議決セシモノニシテ總數二〇〇〇人ヲ超過セザラシメタリ

山海關及秦皇島

三〇〇 三〇〇 三〇〇 三〇〇 三〇〇 若干

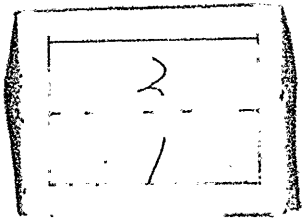

上記兵力ハ四月二十九日第二回列國軍指揮官會議ニ於テ決議セシモノニシテ合計千五百人トシテ外間所ノ砲台平前セラレルマテ伊國ヨリ一中隊ヲ留置スルコトナセリ

京奉鐵道沿線要圖

灤州	唐山	蘆台	塘沽	軍糧城	楊村	郎房	黃村	秦皇島
三〇〇								
	三〇〇	三〇〇						
					三〇〇	三〇〇		
			三〇〇	三〇〇				
							三〇〇	
								若干

各地各々三百人ニシテ内五十人ヲ騎兵トシ外ニ機關砲ニ三門ヲ附ス

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 11月 27日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	



判決

本調査ニ依ルニ定數外増加ノ場合關係國外交當局若ハ軍隊指揮官ノ間ニ何等カノ交渉ヲ要セシ事實ナク自國ノ立場及軍ノ狀況ニ依リ列國ハ適時増減ヲ實施シテ我支那駐屯軍モ必要ニ應ジ列國協議スルコトナク任意増減差支ナキモノト認メラル尚増加ヲ繼續スル中ニ夫カ定數兵カトナリアルノ狀況ナリ。

北清事變後列國軍指揮官會議ニ於テ決議セシ北支那駐屯列國軍兵力表

昭二二一
參謀部第一課

摘要

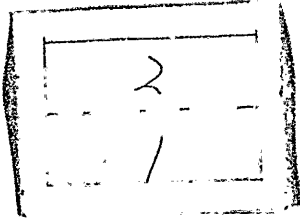

上記兵力ハ一九二一年四月六日列國軍指揮官會議ニ於テ決議會議ニ於テ議決セシモノニシテ總數二〇〇〇人ヲ超過セサラシメタリ

上記兵力ハ四月六日列國軍指揮官會議ニ於テ決議セシ本條約の守備兵ニシテ諸兵連合ノ二〇〇〇人ナリ四月十九日第二回列國軍指揮官會議ニ於テ變更時期ニ於ケル天津及附屬地ニ留置スヘキ六〇〇兵次ノ如ク留置ス 英佛日及獨兵各々千四百人 伊兵四百人 上記兵力ハ四月二十九日第二回列國軍指揮官會議ニ於テ決議セルモノニシテ合計千五百人トシテ外同所ハ砲台平前セラレバテ伊國ヨリ一中隊ヲ留置スルコトナセリ

京奉鐵道沿線要圖								駐屯地名	兵力	
藥州	唐山	蘆台	塘沽	軍糧	楊村	郎房	黃村	秦皇島 山海關及	天津	北京
三〇〇								三〇〇	四〇〇	三〇〇
	三〇〇	三〇〇						三〇〇	四〇〇	二五〇
					三〇〇	三〇〇		三〇〇	四〇〇	三〇〇
			三〇〇	三〇〇				三〇〇	四〇〇	三〇〇
								三〇〇		三〇〇
							三〇〇			一五〇
									四〇〇	二〇〇
								若干	若干	二〇〇

各地各々三百人ニシテ内五十人ヲ騎兵トシ外ニ機關砲ニ三門ヲ附ス

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 11月 27日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

英國軍、豊臺守備、經緯ト日本軍ヲ配置セントスル能

年次 区分	1901	1903	1905	1906	1907	1908	1909	1910	1911	大正元年 1912	1913	1914	五月 1915	1916	六月 1917	1918	1919	九年三月 1920	1921	
北京	3,450	2,711	2,671	2,744	2,671	2,555	2,700	2,377	2,666	3,443	3,811	3,533	1,088	1,114	1,114	1,114	1,111	911	1,488	
天津	5,100	8,066	8,822	8,566	8,800	14,886	15,440	16,603	15,523	17,554	20,377	20,588	2,522	2,844	2,600	2,600	1,866	5,311	5,711	
秦皇島			111	44	88	722	500	422	588	622	266	677	222	211	211	211	211	211	255	222
山海關	3,250	432	436	492	482	233	411	399	355	833	1366	277	777	122	122	122	122	122	299	277
馬家鋪 豊臺	620	0	0	0	0	0	0	0	0	181	179	189	21	21	21	21	21	21	40	37
馬頭 揚村	270	0	0	0	0	0	0	0	0	266	255	288	122	122	200	200	200	200	200	200
塘沽 活活	500	0	0	0	0	0	0	0	0	166	166	155	122	200	200	200	200	200	200	200
塘沽 大芦	250	766	555	555	0	0	0	0	0	399	399	377	122	0	0	0	0	0	0	0
唐山	370	329	394	321	310	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13,876	2,103	2,277	2,222	2,213	18,366	19,011	19,211	18,822	27,011	27,933	28,900	4,711	4,722	4,488	4,488	3,711	7,366	8,255	

列國軍司令官會議ノ守備區域ノ變更

一九〇一年ノ會議ニ於テ
北京、大沽、山海關間ノ鐵道線上所々ニ永續ノ衛戍地ヲ設ク
各國軍ノ分轄區分
伊國 黃村 獨園 廊房及楊村 英國 唐山及唐山
二 明治四十四年十一月ニ於テ
革命擾亂發生時交通線保護ノ爲白河結氷前
英國軍 北京ヨリ王莊ノ南方六吉米ニ至ル七十里米間 豊臺 黃村 安定
ニ小哨ヲ置ク

三 京榆鐵道守備ニ關シ司令官會議 (一九一一年一月)
英國軍 北京ヨリ白河、架木、楊村、鐵橋ノ西端ニ至ル

四 列國軍司令官會議 (一九一二年一月)
鐵道沿線ノ緊張ナル停車場、橋梁等ニ軍隊ヲ配置スルコト
露國兵京榆鐵道守備ニ參加ノ件 (甲午年三月)
北京 豊臺

五 又歐洲戰爭(青島戰)ノ當時若干變更シ日本軍揚村ニ分遣ス
大正七年頃ヨリ同十五年ニ至ル間 奉天軍ノ軍事輸送ノ抗議、軍用
列車ノ運行等ニ關シ列國軍司令官會議ヲ再三實施セラレタリ
大正十五年英國軍ノ豊臺守備撤退ニ關シハ調査中

六 昭和三年ノ濟南事變時ニ於テ英國軍唐山附近ニ派遣 同年撤退
昭和五年十二月ニ日列國軍司令官會議ニ於テ英國軍司令官ノ提議ニ依
ル協同動作計畫ノ重要改正條項左ノ如シ

七 一 京奉鐵道自由交通維持ノ爲平時ヨリ守備區域分割主義ヲ廢止シ狀況ニ
應シ軍司令官會議ニ於テ定ムルコトセリ 而シテ鐵道守備以外ニ軍隊派遣ヲ
認ノタルモ直接守備ニ關スル條項ハ削除セリ

八 二 現在兵力ニ於テハ北京 塘沽間ノ交通維持ヲ行フ但シ現ニ配置シタル塘沽
秦皇島、山海關等ノ部隊ハ關係軍司令官ノ必要ト認ムル期間存置ス

九 三 豊臺ハ明治四十四年以來昭和五年ニ至ル迄列國軍司令官會議ノ決議ニ依リ概ネ
英國軍ノ守備區域ト定メラレタリテ 上記ノ表ニ示ス如ク大正元年ヨリ
大正十五年迄 守備兵ヲ配置セラレタリ

十 以上ニ依リ觀察スルニ鐵道守備ノ任務ヲ有セシテ 演習又ハ兵營狹
隘ノ爲或ハ邦人保護等ノ目的ト北支現時局ノ狀況ニ依リ一部隊
ヲ派遣駐屯セシムルハ列國協同動作計畫ノ條文ニ何等抵觸セズ又
列國軍司令官ニ之カ實施方ヲ協議スルノ必要モナシ 即從來
ノ恒例ヲ觀ルモ記錄ニ昭示三年ノ英國軍ノ古冶、林西、米國軍ノ新河
分遣等ハ最モ明瞭ナリ 強テ列國ニ通告セントスルナラハ實施後ニ於
テ毎月相互ノ兵力通報時ニ北平ノ邦人増加並豊臺ニ邦人居住
及旅行者激増保護ノ爲部隊ヲ派遣分駐セル旨ヲ通報シ置
ケハ時日ノ經過ト共ニ常駐ノ如ク一般ニ思ハシムルニ至ルモノトス

日本軍ヲ配置セントスル能否調査

昭和十一年二月調
支那駐屯軍參謀部第一課

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
1915	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934
108	114	114	114	111	91	148	97	106	100	158	209	191	249	424	297	256	233	237	227
252	284	260	260	186	531	571	472	620	180	646	673	746	1,453	1,451	1,373	771	770	762	759
22	21	21	21	21	25	22	20	17	0	0	0	0	0	54	0	0	0	0	0
12	12	12	12	12	29	27	24	27	394	0	0	0	34	50	0	0	0	0	0
21	21	21	21	21	40	37	28	36	36	40	29	42	0	0	0	0	0	0	0
12	20	20	20	20	20	20	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
471	472	448	448	371	736	825	662	806	710	844	911	979	1,736	2,771	1,690	1,027	1,003	999	986

判決

豊臺六日本軍ノ法的根據ナキモ從來ノ慣習ニ從ヒ不取
敢一部隊ヲ臨時形式ヲ以テ派遣シ時日ノ經過ト共ニ之ヲ永
駐化スルヲ賢明ナリトス

理由

條約上ノ根據

北清事變ニ關スル最終議定書 (一九〇一年)

一、第九條ニ於テ

清國政府ハ一九〇一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ
首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セシカ爲メニ相互ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各地點ヲ
占領スルノ權利ヲ認メタリ

即此、各國ノ占領スル地點ハ黃村、廊房、天津、軍糧城、塘沽、蘆台、唐山、涿
州、昌黎、秦皇島及山海關トス

二、第七條中ニ

各國カ其ノ公使館防禦ノ爲メ公使館所在區域内ニ常置護衛兵ヲ置クノ權利ヲ
認メタリ

本條項中ニハ黃村以北北平附近ヲ含マレラス 故ニ北平及平綏平
漢鐵路ノ分歧點タル豊臺ハ北支邦人ノ往復頻繁 北平邦人ノ増加及同地
ニモ邦人ノ發展ヲ見ツ、アル今日之カ保護ノ爲北京赤兵隊ノ一部ヲ
派遣スルコト必要ニシテ條約上差支ナシ

天津還附關スル日清交換公文 (一九〇二年)

外國軍隊ハ其必要ヲ感シタル時ニ於テ夏季ノ屯營地ヲ占領スルノ權アル
事ハ御承諾相成度候

演習ノ爲或地點ヲ占領スルノ權ヲ認メアリ

列國軍司令官會議ノ守備區域ノ變遷

一九〇一年ノ會議ニ於テ
北京、大沽、山海關間、鐵道線上所々ニ永續ノ衛戍地ヲ設ク

各國軍ノ分轄區分

伊國 黃村 獨園、廊房及楊村 英國 芦台及唐山

二、明治四十四年十一月ニ於テ

革命擾亂發生時交通線保護ノ爲白河結氷前

英國軍 北京ヨリ王莊、南方六吉米ニ至ル七上吉米間 豊臺 黃村 安定
ニ小哨ヲ置ク

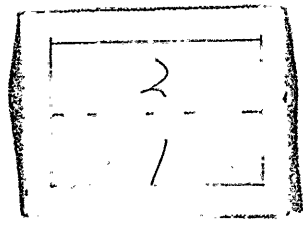

三、京榆鐵道守備ニ關スル司令官會議 (一九一一年一月)

英國軍 北京ヨリ白河、架カル揚村鐵橋ノ西端ニ至ル

四、列國軍司令官會議 (一九一二年一月)

鐵道沿線ノ緊張ナル停車場、橋梁等ニ軍隊ヲ配置スルコト

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 11月 27日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	



英國軍、豊臺守備、經緯、日本軍ヲ配置セントスル能

年次 區分	1901	1903	1905	1906	1907	1908	1909	1910	1911	大正元年7月 1912	1913	1914	五月 1915	1916	六年 1917	1918	1919	九年二月 1920	1921
北京	3450	271	269	274	267	255	270	237	266	343	381	353	108	114	114	114	111	91	148
天津	5100	806	882	856	880	1486	1540	1603	1523	1754	2037	2058	252	284	260	260	186	531	571
秦皇島			11	4	8	72	50	42	58	62	26	69	22	21	21	21	21	25	22
山海關	3250	432	436	492	482	23	41	39	35	83	27	77	12	12	12	12	12	29	27
馬家鋪 豊臺	620	0	0	0	0	0	0	0	0	181	179	189	21	21	21	21	21	40	37
馬頭 揚村	270 500	0	0	0	0	0	0	0	0	26 16	23 16	28 15	12 12	20	20	20	20	20	20
塘沽 沽台	250	76	5	5	0	0	0	0	0	39 16	39 18	37 18	12 12	0	0	0	0	0	0
唐山	370	329	394	321	310	0	0	0	0	2 16	2 16	26 26	0	0	0	0	0	0	0
計	13876	2103	2277	2222	2213	1836	1901	1921	1882	2701	2793	2890	471	472	448	448	371	736	825

演習、爲或地點ヲ占領スルノ權ヲ認メアリ

一、一九〇一年ノ會議ニ於テ
北京、大沽、山海關間ノ鐵道線上所々ニ永續ノ衛戍地ヲ設ク
各國軍ノ分擔區分

二、明治四十四年十一月ニ於テ
伊國、黃村、獨國、廊房及揚村、英國、芦台及唐山
革命擾亂發生時交通線保護ノ爲白河結氷前
英國軍、北京ヨリ王莊、南方六吉米ニ至ル七十里米間、豊台、黃村、安定
ニ小哨ヲ置ク

三、京榆鐵道守備ニ關シ司令官會議（一九一一年一月）
英國軍、北京ヨリ白河、栗林、揚村、鐵橋ノ西端ニ至ル

四、列國軍司令官會議（一九一二年一月）
鐵道沿線ノ緊張ナル停車場、橋梁等ニ軍隊ヲ配置スルコト
露國、北京、榆鐵道守備ニ參加ノ件（甲午年三月）
北京、豊台

五、又歐洲戰爭（青島戰）ノ當時若干變更シ日本軍揚村ニ分遣ス
大正七年頃ヨリ同十五年ニ至ル間、奉天軍ノ軍事輸送ノ抗議、軍用
列車ノ運行等ニ關シ列國軍司令官會議ヲ再三實施セラレタリ

六、大正十五年英國軍ノ豊台守備撤退ニ關シハ調査中
昭和三年ノ濟南事變時ニ於テ英國軍唐山附近ニ派遣、同年撤退
昭和五年十二月ニ日列國軍司令官會議ニ於テ英國軍司令官提議ニ依
ル協同動作計畫ノ重要改正條項左ノ如シ

一、京奉鐵道自由交通維持ノ爲平時ヨリ守備區域分割主義ヲ廢止シ狀況ニ
應ジ軍司令官會議ニ於テ定ムルコトセリ、而シテ鐵道守備以外ニ軍隊派遣ヲ
認メタルモ直接守備ニ關スル條項ハ削除セリ

二、現在兵力ニ於テハ北京、塘沽間ノ交通維持ヲ行フ但シ現ニ配置シタル塘沽
秦皇島、山海關等ノ部隊ハ關係軍司令官ノ必要ト認ム期間存置ス

三、豊台ハ明治四十四年以來昭和五年ニ至ル迄列國軍司令官會議ノ決議ニ依リ概ネ
英國軍ノ守備區域ト定メラレタリ、上記ノ表ニ示ス如ク大正元年ヨリ
大正十五年迄守備兵ヲ配置セラレタリ

以上ニ依リ觀察スルニ鐵道守備ノ任務ヲ有セシテ演習又ハ兵營狹
隘ノ爲或ハ邦人保護等ノ目的ト北支現時局ノ狀況ニ依リ一部隊
ヲ派遣駐屯セシムルハ列國協同動作計畫ノ條文ニハ何等接觸セズ又
列國軍司令官ニ之カ實施方ヲ協議スルノ必要モナシ、即從來
ノ恒例ヲ觀ルモ記錄ナシ、昭和三年ノ英國軍ノ古冶、林西、米國軍ノ新河
分遣等ハ最モ明瞭ナリ、強テ列國ニ通告セントスルナラハ實施後ニ於
テ毎月相互ノ兵力通報時ニ北平ノ邦人増加並豊台ニ邦人居住
及旅行者激増保護ノ爲部隊ヲ派遣分駐セル旨ヲ通報シ置
ケハ時日ノ經過ト共ニ常駐ノ如ク一般ニ思ハシムルニ至ルモノトス

日本軍ヲ配置セントスル能否調査

昭和十一年二月調
支那駐屯軍參謀部第一課

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
1915	1916	1917	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1935	1936
108	114	114	114	111	91	148	97	106	100	158	209	191	249	424	297	256	233	237	227
252	284	260	260	186	531	571	472	620	180	646	673	746	1,453	1,451	1,393	771	770	762	759
22	21	21	21	21	25	22	20	17	0	0	0	0	0	54	0	0	0	0	0
12	12	12	12	12	29	27	24	27	394	0	0	0	34	50	0	0	0	0	0
21	21	21	21	21	40	37	28	36	36	40	29	42	0	0	0	0	0	0	0
12	20	20	20	20	20	20	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	林面570 242	0	0	0	0	0
471	472	448	448	371	736	825	662	806	710	844	911	979	1,736	2,791	1,690	1,027	1,003	999	986

判決

豐臺六日本軍ノ法的根據ナキモ從來ノ慣習ニ從ヒ不取
敢一部隊ヲ臨時形式ヲ以テ派遣シ時日ノ經過ト共ニ之ヲ永
駐化スルヲ賢明ナリトス

理由

條約上ノ根據

北清事變ニ關スル最終議定書 (一九〇一年)

一、第九條ニ於テ

清國政府ハ一九〇一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ
首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セシカ爲メニ相互ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各地點ヲ
占領スルノ權利ヲ認メタリ

即此ノ各國ノ占領スル地點ハ黃村、廊坊、天津、軍糧城、塘沽、蘆台、唐山、涿
州、昌黎、秦皇島及山海關トス

二、第七條中ニ

各國カ其ノ公使館防禦ノ爲メニ公使館所在區域内ニ常置護衛兵ヲ置クノ權利ヲ
認メタリ

本條項中ニハ黃村以北北平附近ヲ含マレラス 故ニ北平及平綏平
漢鐵路ノ分歧點タル豐臺ハ北支邦人ノ往復頻繁 北平邦人ノ増加及同地
ニモ邦人ノ發展ヲ見ツ、アル今日之カ保護ノ爲メ北京歩兵隊ノ一部ヲ
派遣スルコト必要ニシテ條約上差支ナシ

天津還附ニ關スル日清交換公文 (一九〇二年)

一、外國軍隊ハ其必要ヲ感シタル時ニ於テ夏季ノ屯營地ヲ占領スルノ權アル
事ハ御承諾相成度候

演習ノ爲メ或地點ヲ占領スルノ權ヲ認メアリ

列國軍司令官會議ノ守備區域ノ變遷

一九〇一年ノ會議ニ於テ
北京、大沽、山海關間ノ鐵道線上所々ニ永續ノ衛戍地ヲ設ク

各國軍ノ分轄區分

伊國 黃村 獨園、廊房及楊村 英國 芦台及唐山

二、明治四十四年十一月ニ於テ

革命擾亂發生時交通線保護ノ爲メ白河結氷前

英國軍 北京ヨリ王莊、南方六吉米ニ至ル七十五吉米間 豐臺、黃村、安定

ニ小哨ヲ置ク

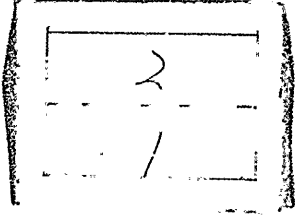

三、京榆鐵道守備ニ關スル司令官會議 (一九〇一年一月)

英國軍 北京ヨリ白河、栗林、楊村鐵橋ノ西端ニ至ル

四、列國軍司令官會議 (一九〇二年一月)

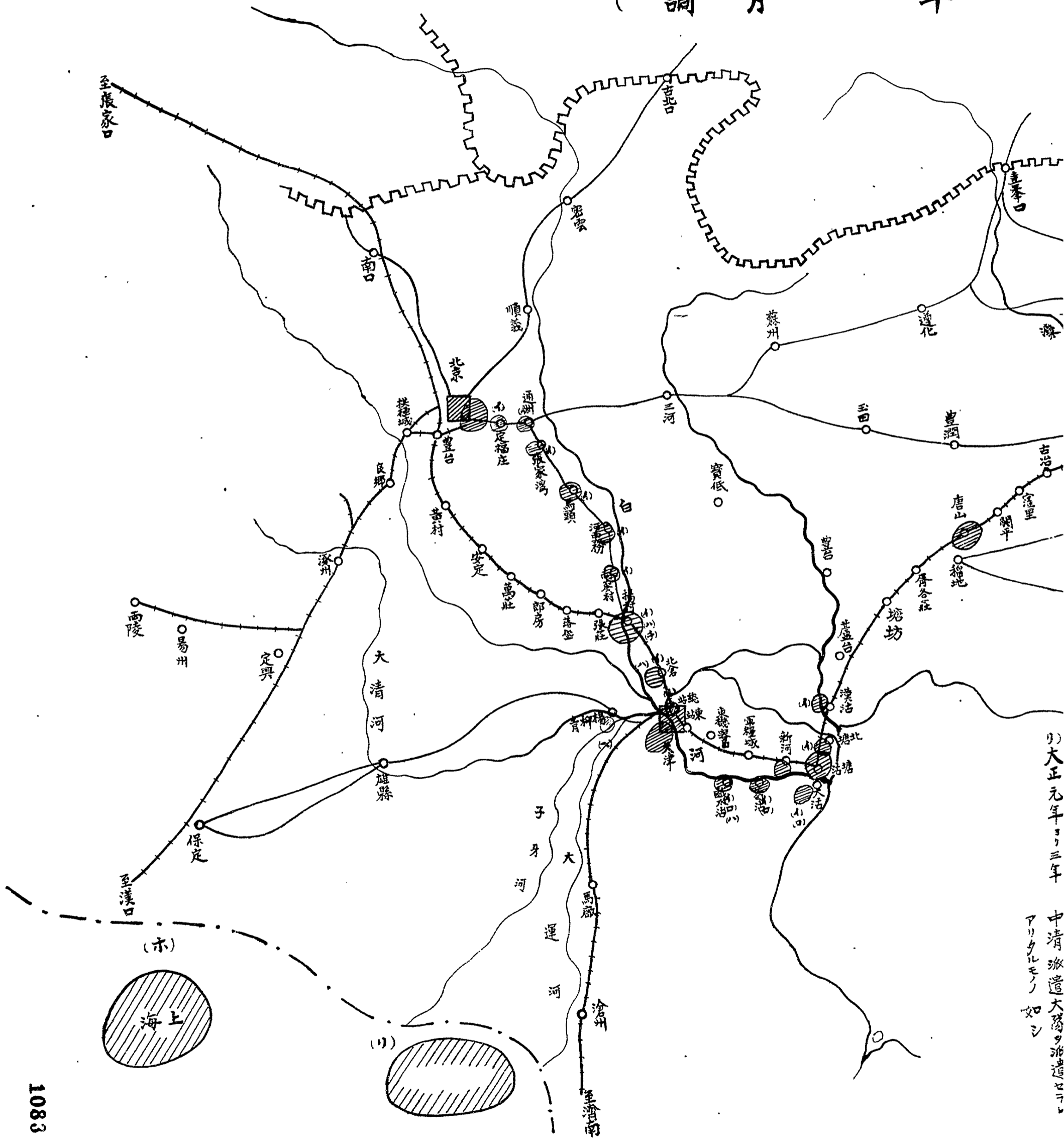
鐵道沿線ノ緊張ハ停車場、橋梁等ニ軍隊ヲ配置スルコト

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 11月 27日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

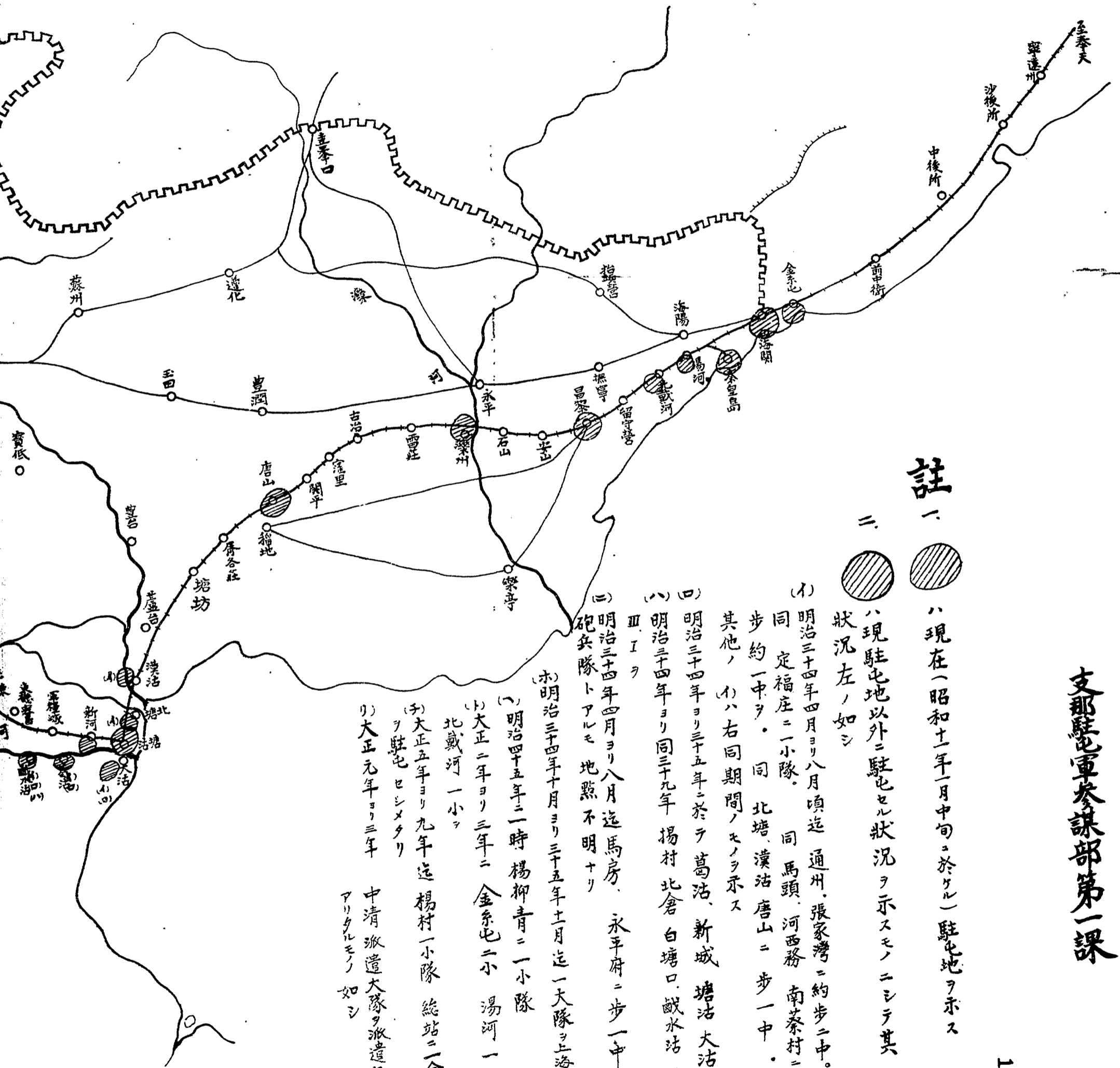
表況狀屯駐ルケ於=地ノ外以

(調月一年一)



現駐屯地以外之地於

(昭和十一年一月)



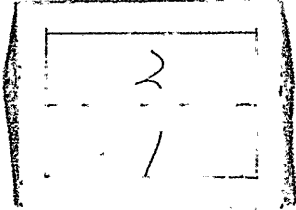

註

- 一、 現在(昭和十一年一月)中旬に於ける駐屯地ヲ示ス
- 二、 現駐屯地以外に駐屯セル狀況ヲ示スモノニシテ其狀況左ノ如シ

- (一) 明治三十四年四月ヨリ八月頃迄 通州、張家灣ニ約歩一中、同 定福庄ニ一小隊、同 馬頭、河西務、南蔡村ニ歩約一中ヲ、同 北塘、漢沽、唐山ニ歩一中、其他ノイハ右同期間ノモノヲ示ス
- (二) 明治三十四年ヨリ三十五年ニ於テ葛沽、新城、塘沽、大沽ニ
- (三) 明治三十四年ヨリ同三十九年 揚村、北倉、白塘口、鹹水沽ニ
- (四) 明治三十四年四月ヨリ八月迄馬房、永平府ニ歩一中、砲兵隊トアルモ地點不明ナリ
- (五) 明治三十四年十月ヨリ三十五年十月迄一大隊ヲ上海ニ
- (六) 明治四十五年ニ時楊柳青ニ一小隊
- (七) 大正二年ヨリ三年ニ 金系屯ニ小 湯河一小 北戴河一小ヲ
- (八) 大正五年ヨリ九年迄楊村一小隊 總站ニ一小隊ヲ駐屯セシメタリ
- (九) 大正元年ヨリ三年 中清激遣大隊ヲ激遣セラレアリタルモノノ如シ

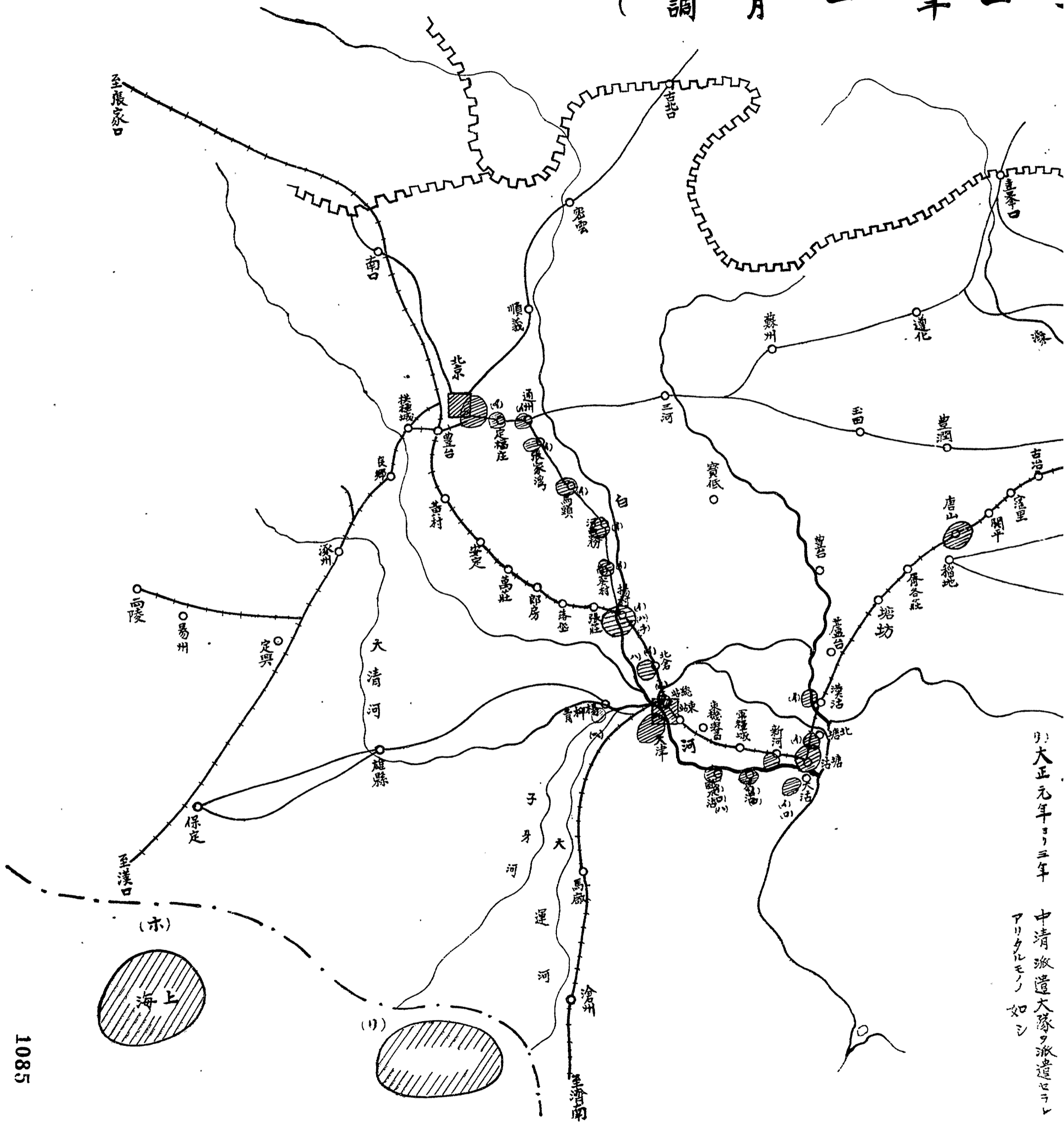
支那駐屯軍參謀部第一課

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 11月 27日</p> <p>主務者又は</p> <p>撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

表況狀屯駐ル於地外以

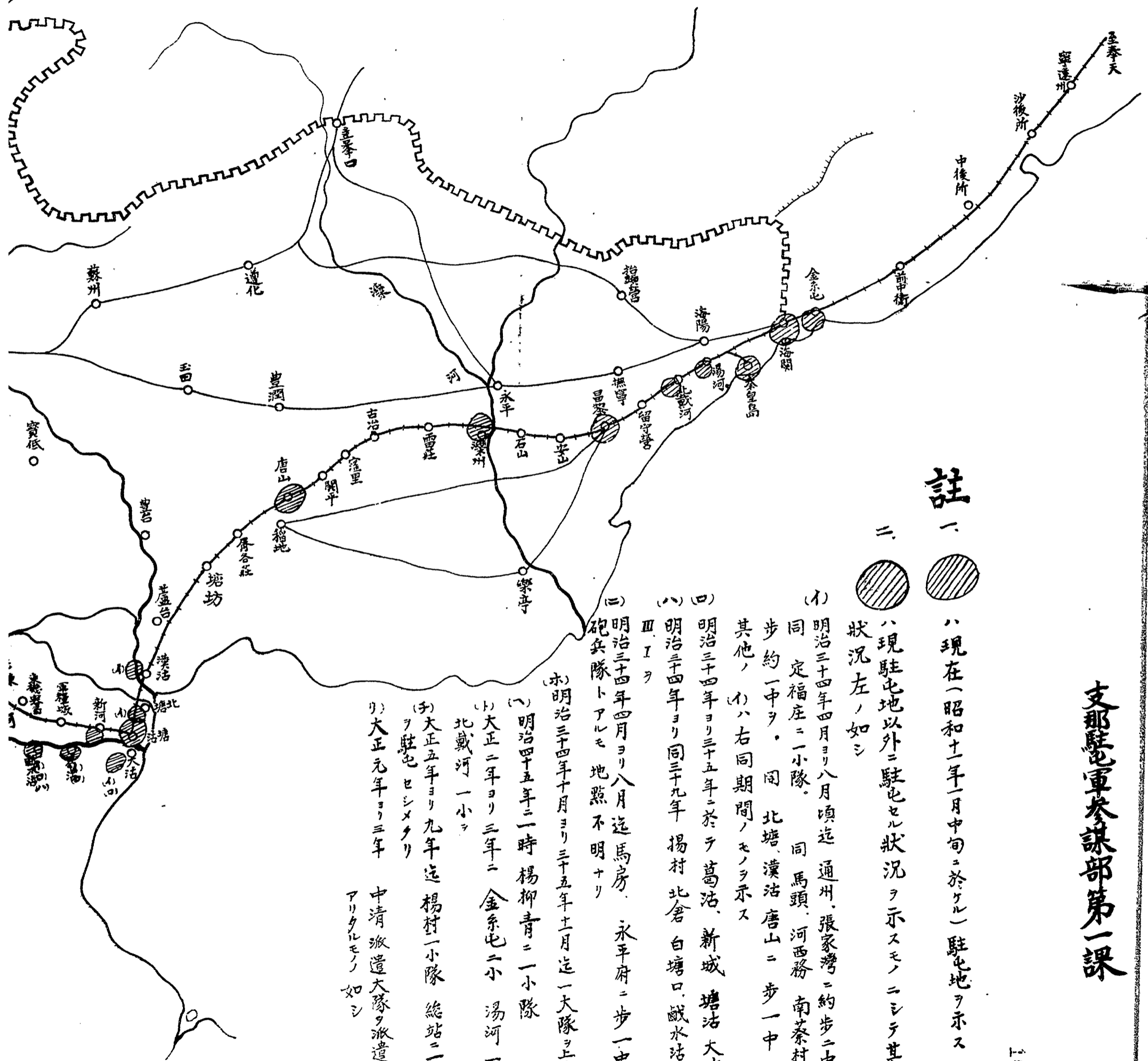
(調月一年一)



大正元年三月三年
 中清激遣大隊ヲ激遣セラレ
 アリタルモノノ如シ

現駐屯地以外ノ地方ニ於テ

(昭和十一年一月)



註

- 一、 現在(昭和十一年一月中旬ニ於ケル)駐屯地ヲ示ス
- 二、 現駐屯地以外ニ駐屯セル狀況ヲ示スモノニシテ其狀況左ノ如シ

- (一) 明治三十四年四月ヨリ八月頃迄 通州、張家灣ニ約歩一中。同 定福庄ニ一小隊。同 馬頭、河西務、南茶村ニ歩約一中ヲ。同 北塘、漢沽、唐山ニ歩一中。其他、(一)ハ右同期間ノモノヲ示ス
- (二) 明治三十四年ヨリ三十五年ニ於テ葛沽、新城、塘沽、大沽ニ
- (三) 明治三十四年ヨリ同三十九年 揚村、北倉、白塘口、鹹水沽ニ
- (四) 明治三十四年四月ヨリ八月迄馬房、永平府ニ歩一中
- (五) 明治三十四年十月ヨリ三十五年十一月迄一大隊ヲ上海ニ砲兵隊トアルモ地點不明ナリ
- (六) 明治三十四年十月ヨリ三十五年十一月迄一大隊ヲ上海ニ
- (七) 明治四十五年ニ一時楊柳青ニ一小隊
- (八) 大正二年ヨリ三年ニ 金糸屯ニ小 湯河一小 北戴河一小
- (九) 大正五年ヨリ九年迄楊村一小隊 總站ニ一分隊ヲ駐屯セシメタリ
- (十) 大正元年ヨリ三年 中清激遣大隊ヲ激遣セラレアリタルモノノ如シ

支那駐屯軍參謀部第一課